

第1回牧之原市学校再編計画策定委員会 次第

日時：令和元年9月30日（月）

午後1時30分～

会場：相良庁舎 3階会議室

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員の委嘱
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 教育委員会からの諮問
- 6 情報提供
 - (1) 牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針と学校再編計画について
(教育総務課長 山本喜宣)
 - (2) これからの教育について
(静岡大学教育学部講師 島田桂吾氏)
 - (3) 学校施設について
(静岡県教育委員会財務課施設整備班長 横田恭子氏)
- 7 議 事
情報提供を受けての意見交換
- 8 連絡事項
- 9 閉 会

担 当：牧之原市教育文化部教育総務課
電 話：0548-53-2642
FAX：0548-53-2657
E-mail：kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp

牧之原市学校再編計画策定委員会情報提供資料

牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針と学校再編計画について

令和元年9月30日

牧之原市教育委員会

牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針

▶ 平成31年3月策定

牧之原市望ましい教育環境の
あり方に関する方針

平成31年3月

牧之原市教育委員会

- 牧之原市でこれから進める教育
- そのために必要な教育環境

- 専門家と教育に関係する市民で構成した委員会が検討し、答申。

- 学校施設に求められるものや考え方が示されている。
- これを具体化するのが再編計画。

公共施設マネジメント基本計画

- ▶ 市の公共施設の整備方針
- ▶ 基本理念：次代にツケを残さないように、今あるものを活かしながら効果的に集約や複合化をし、公共施設の再配置をする。

牧之原市公共施設マネジメント基本計画
(牧之原市公共施設等総合管理計画)

～牧之原市の未来に向けた
「対話と協働による公共施設マネジメント」の推進～



平成 28 年 11 月



大切にする視点

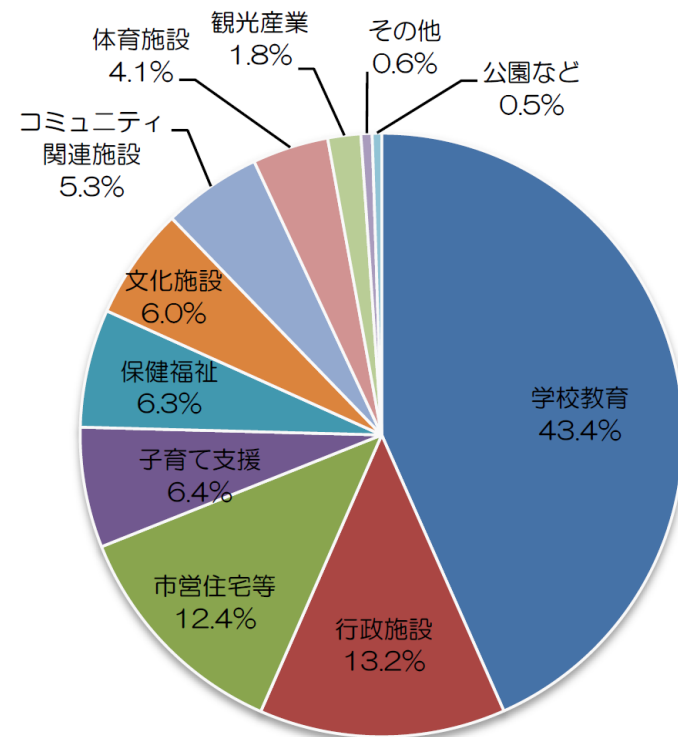
- 1 未来志向で考えよう
- 2 賢く使おう！
- 3 共感を大事にしよう！
- 4 みんなでやろう！



学校施設

牧之原市公共施設白書より

- ▶ 学校施設は、公共施設の延床面積の43.4%を占める
- ▶ ほとんどの学校が建築してから40年～50年経過している



小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定します。

方針で明らかにした

社会的背景

- AI等の技術革新
- 少子高齢化(若者人口の減少)
- グローバル化 等

社会が
変わる

今ある職業が変わる

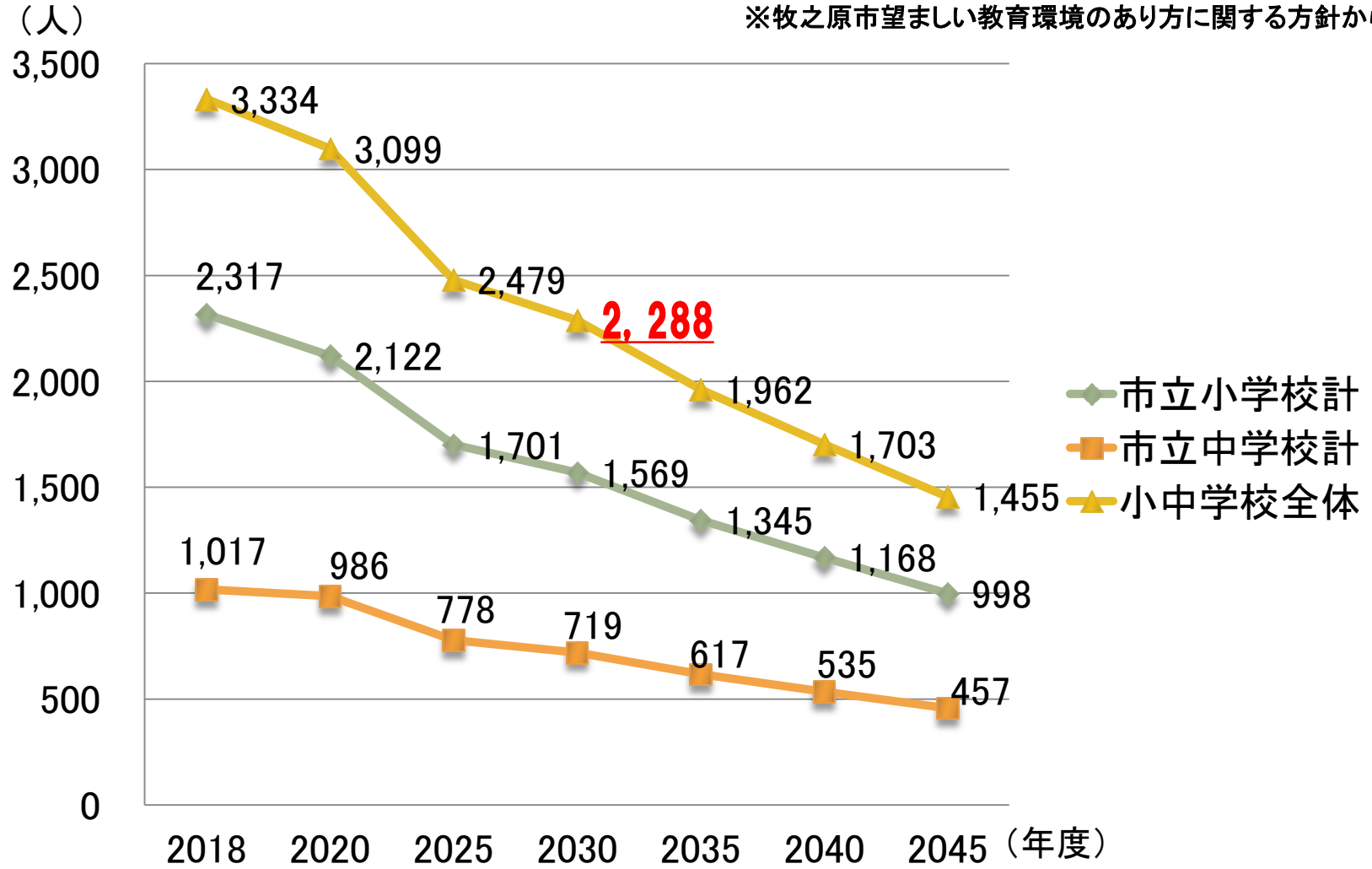
- 今後10~20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・A・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授))
 - 子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く(キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授))
-



市の現状①

児童生徒の推計

※牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針から



▶ 国立人口問題研究所がH30.3月に発表した2045年までの市町村別将来推計人口のうち、5～14歳の人口推計を現状の各学校の児童数にかけて算出したものです。

■ 児童生徒の推計(学校ごと)

※牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針から

年度	2018	2020	2025	2030	2035	2040	2045
相良小学校	527	470	425	392	336	292	249
菅山小学校	148	138	103	95	81	70	60
萩間小学校	129	134	81	75	64	56	48
地頭方小学校	207	187	162	150	129	112	96
川崎小学校	439	410	307	283	243	211	180
細江小学校	449	375	347	320	274	238	203
勝間田小学校	140	141	93	86	74	64	55
坂部小学校	107	107	72	66	57	49	42
市立小学校計	2,146	1,962	1,590	1,467	1,258	1,092	933
相良中学校	419	407	313	289	248	215	184
榛原中学校	543	529	408	377	324	281	240
市立中学校計	962	936	721	666	572	496	424
牧之原小学校	171	160	111	102	87	76	65
牧之原中学校	55	50	57	53	45	39	33
組合小中学校計	226	201	168	155	132	115	98
小中学校全体	3,334	3,099	2,479	2,288	1,962	1,703	1,455

市の現状②

学校施設の築年数

学校名	校舎	築年数	学校名	校舎	築年数
相良小学校	A棟	34	川崎小学校	A棟	50
	B棟	45		B棟	50
	C棟	36		C棟	38
菅山小学校	(管理教室棟)	37	細江小学校	北校舎	48
	(教室棟)	25		南校舎	36
萩間小学校	北校舎	46	勝間田小学校	(管理教室棟)	54
	南校舎	53	坂部小学校	(管理教室棟)	56
地頭方小学校	管理棟	45	相良中学校	南校舎	43
	1棟	28		中校舎	43
	2棟	53		北校舎	43
牧之原小学校	(管理教室棟)	48	牧之原中学校	(管理教室棟)	40
			榛原中学校	A棟	45
				B棟	46

▶ 増改築がある場合は、校舎の最初の建築年を表示

方針が示す主に進めていくこと

- キャリア教育を軸にした小中一貫教育
- コミュニティ・スクール
- 学校再編



キャリア教育を軸とした小中一貫教育

- 生き方の教育
 - 多様な人と関わったり、さまざまな体験を通して多様性を受容したり、新しいアイデアを生み主体的に行動ができる力を付ける。
 - 自らの将来の目標を立て、その実現に必要な力を9年間の系統立てた学びの中で身に付けさせる
- ① 社会の変化に適応できるだけでなく、自分で将来を選択し、自分の思いを実現できる力を育成。
 - ② 中学校まで一貫したサポートができるようにするとともに、小学校から中学校に行くときの段差を少なくする。



コミュニティ・スクール

- 地域と学校が目標を共有し、同じ方向を向いて子どもたちを育む学校づくりができる仕組み。
 - ① 子どもたちの学びを社会とつなげる。
 - ② 多様な人が子どもたちの育ちに関わることができる。



方針の目指すもの



次代を切り拓く力


- ・多様性を受け入れることができる・コミュニケーションをとることができる
 - ・新しい考え方やアイデアを生み出すことができる
 - ・主体的に行動できる
- など



そのために必要な環境を整える

- ▶ 小中学校を再編し、小中一貫校とする。
- ▶ 規模は、1学年3学級以上。建築後20年間は単学級とならない。
- ▶ 場所は、津波浸水想定区域外とし、防災機能の充実する。
- ▶ 時代に対応した施設・設備。
- ▶ 市民と共有できる機能(複合化・共有化)

安心・安全で学びやすく、通いたい・通わせたいと思う魅力的な小中一貫校

- 新しい学校は、人や施設を集中し、教育環境の充実を図る。
 - まちづくりと合わせて考える。
-
- 

学校再編計画をつくる

- ▶ 2030年までの開校を目指す
- ▶ 再編計画には、学校区、学校の場所、学校施設の機能や周辺的环境、スケジュール等を盛り込む。



検討の体制



学校再編計画策定委員会大まかなスケジュール

項目	R1度				R2度			
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
再編計画策定委員会		① 勉強会	② 現状把握	③ 視察	④~⑧ 会議5回 (学校区、立地、機能等)			(仮) 報告会

- ※ 市民意見を聴く機会を設ける。(いつ、どのように行うかは策定委員会で決める)
- ※ R2年度も視察を行う予定。

方針推進全体のスケジュール

項目	内容	～2020年	～2022年	～2030年
小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間のカリキュラムづくり (キャリア教育・教科) ・施設分離型の小中一貫教育 から段階的に試行・実施 	キャリア教育・ 英語・ICT	その他の教科	小中一貫教育の推進 分離型から一体型へ
コミュニティ・スクール	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を活かした組織づくり ・モデル校で先行的に検討・ 実施 	モデル校 準備・試行・実施	モデル校以外 準備・実施	学校間 連携の推進
学校再編計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校区、立地、機能、 スケジュールなどの検討 	再編計画決定	学校整備 基本構想	学校建設など



ご清聴ありがとうございました



今後の教育政策の動 向について

—学校再編に向けての視点—

2019(令和元)年9月30日(月)

牧之原市学校再編計画策定委員会

静岡大学 島田桂吾

「Society 5.0」



○文部科学省「Society5.0に向けた人材育成(2018年6月)」

2. Society 5.0に向けて取り組むべき政策の方向性

(新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォースにおける議論の整理)

<求められる人材像、
学びの在り方>

<現状・課題等>

<取り組むべき政策の方向性>

学びの在り方の
変革

共通して求め
られる力の育
成

新たな社会を
牽引する人材
の育成

【すべての学びの段階】

- ・基盤的な学力を確実に定着させながら、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びが不十分。

【小・中学校】

- ・OECD/PISAでも高い到達水準。
- ・他方で、家庭環境、情報環境の変化のなかで、文章や情報の意味を理解し思考する読解力に課題との指摘。
- ・貧困の連鎖を断ち切り、すべての子供達にSociety5.0時代に求められる基礎的な力を確実に習得させる必要。

【高等学校】

- ・普通科7割(80万人)・専門学科等3割(30万人)。
- ・普通科は文系7割(50万人)といった実態があり、多くの生徒は第2学年以降、文系・理系に分かれ、特定の教科については十分に学習しない傾向。
※例えば普通科全体のうち「物理」履修者は2割(14万人)
- ・学年にとらわれない多様な学び(高等教育機関や産業界等との連携)の可能性。

【高等学校卒業から社会人】

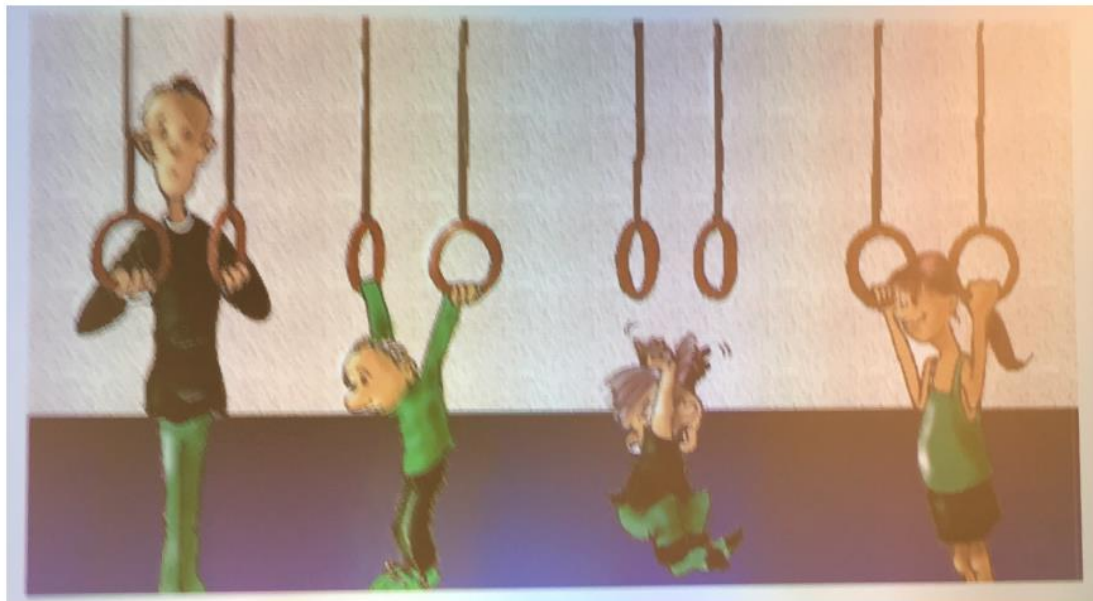
- ・四年制大学は、人・社系5割(30万人)、理工系2割(12万人)、保健系1割、教育・芸術系等2割。
※諸外国は、理工系にドイツ約4割、フィンランド・韓国等約3割
- ・教育におけるSTEAMやデザイン思考の必要性。
※STEAM=Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

I 「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供

II 基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得

III 文理分断からの脱却

平等



公平



○中央教育審議会諮問内容(2019年4月)

1. 新時代に対応した義務教育の在り方

- 基礎的読解力などの基盤的な学力の確実な定着に向けた方策
- 義務教育9年間を見通した児童生徒の発達の段階に応じた学級担任制と教科担任制の在り方や、習熟度別指導の在り方など今後の指導体制の在り方
- 年間授業時数や標準的な授業時間等の在り方を含む教育課程の在り方
- 障害のある者を含む特別な配慮を要する児童生徒に対する指導及び支援の在り方など、児童生徒一人一人の能力、適性等に応じた指導の在り方 等

2. 新時代に対応した高等学校教育の在り方

- 普通科改革など各学科の在り方
- 文系・理系にかかわらず様々な科目を学ぶことや、STEAM教育の推進
- 時代の変化・役割の変化に応じた定時制・通信制課程の在り方
- 地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方 等

3. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方

- 外国人児童生徒等の就学機会の確保、教育相談等の包括的支援の在り方
- 公立学校における外国人児童生徒等に対する指導体制の確保
- 日本の生活や文化に関する教育、母語の指導、異文化理解や多文化共生の考え
方に基づく教育の在り方 等

○中央教育審議会諮問内容(2019年4月)

4. これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等

- 児童生徒等に求められる資質・能力を育成することができる教師の在り方
- 義務教育9年間を学級担任制を重視する段階と教科担任制を重視する段階に捉え直すことのできる教職員配置や教員免許制度の在り方
- 教員養成・免許・採用・研修・勤務環境・人事計画等の在り方
- 免許更新講習と研修等の位置付けの在り方など教員免許更新制の実質化
- 多様な背景を持つ人材によって教職員組織を構成できるようにするための免許制度や教員の養成・採用・研修・勤務環境の在り方
- 特別な配慮を要する児童生徒等への指導など特定の課題に関する教師の専門性向上のための仕組みの構築
- 幼児教育の無償化を踏まえた幼児教育の質の向上
- 義務教育をすべての児童生徒等に実質的に保障するための方策
- いじめの重大事態、虐待事案に適切に対応するための方策
- 学校の小規模化を踏まえた自治体間の連携等を含めた学校運営の在り方
- 教職員や専門的人材の配置、ICT環境や先端技術の活用を含む条件整備の在り方 等

基本理念実現のための9年間の連続した学び

目指すのは「JJJ」...



1. 「キャリア教育」

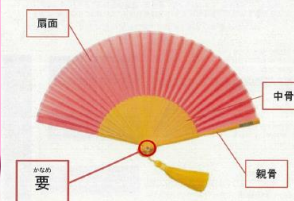
児童・生徒が、

- 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力※を身に付けていくことができるよう、
※各学校が、目の前の子供の実態に即して設定する
- 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

なるほど、
今学んでいることは、自分にとって
重要なんだなあ



なぜなら、この学びを通して、将来必要なこんな力が身につくのだから



特別活動を要としつつ、
すべての教育活動を通して実践する

1. 「キャリア教育」

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

キャリア教育を通して育てる 基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

1. 「キャリア教育」

【計画された偶発性理論】(クランボルツ教授)

→個人のキャリア形成をもっと幅広くとらえ、キャリアの8割が予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される

好奇心: たえず新しい学習の機会を模索し続けること

持続性: 失敗に屈せず、努力し続けること

楽観性: 新しい機会は必ず実現する、可能になるとポジティブに考えること

柔軟性: こだわりを捨て、信念、概念、態度、行動を変えること

冒険心: 結果が不確実でも、リスクを取って行動を起こすこと

2. 「小中一貫教育」

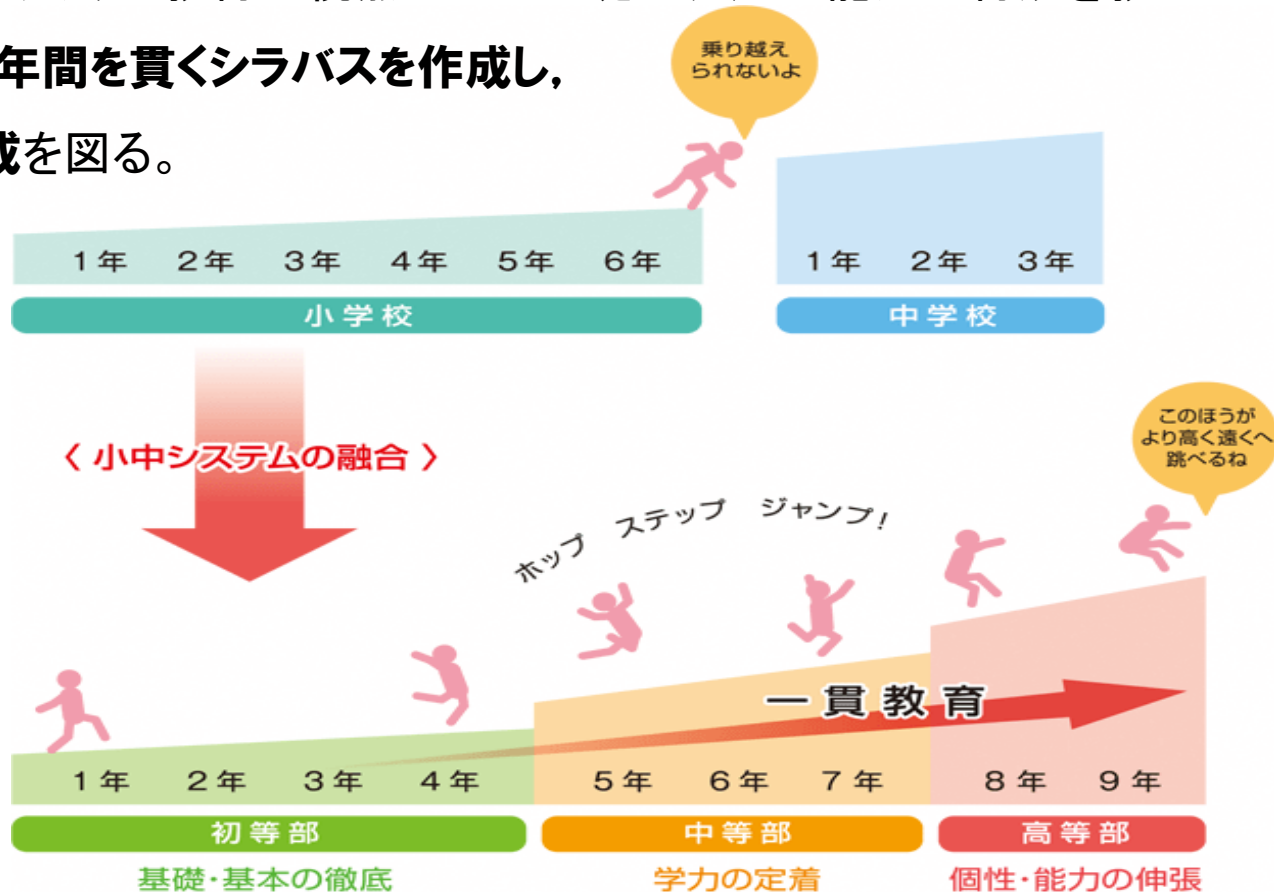
- 小学校から中学校に上がるときに、不登校児童生徒数、いじめの認知件数、暴力行為の加害児童生徒数が大幅に増える。(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査:文部科学省)
- 学校や勉強に関する肯定的な回答は大きく減少する傾向がある。(都道府県・民間研究所の調査)

主な内容	小学校	中学校
指導体制	学校担任制	教科担任制
指導方法	日常生活に根差した比較的きめ細やかな指導	比較的抽象度の高い内容を含めた指導
家庭学習	宿題の教科間の調整がされやすい	宿題の教科間の調整がされにくい 部活動との両立が必要となる
試験等	定期試験は実施されない	定期試験が実施され、小学校よりも試験に向けた計画的な学習が必要になる
児童生徒指導	学級担任を中心に児童の心理的な状況と行動の実態を十分把握しながら、模範意識の醸成を図る指導	中学生の特徴と思春期の理解を基本とした規範意識を育成する指導
部活動等	学校の教育活動の一環としての部活動はなく、スポーツ少年団等にここで参加する活動が主体	学校の教育活動の一環として部活動が行われ、活動を大畑羽機会の増加、先輩・後輩の上下関係が人間関係に占める割合が高まる場合有

2. 「小中一貫教育」

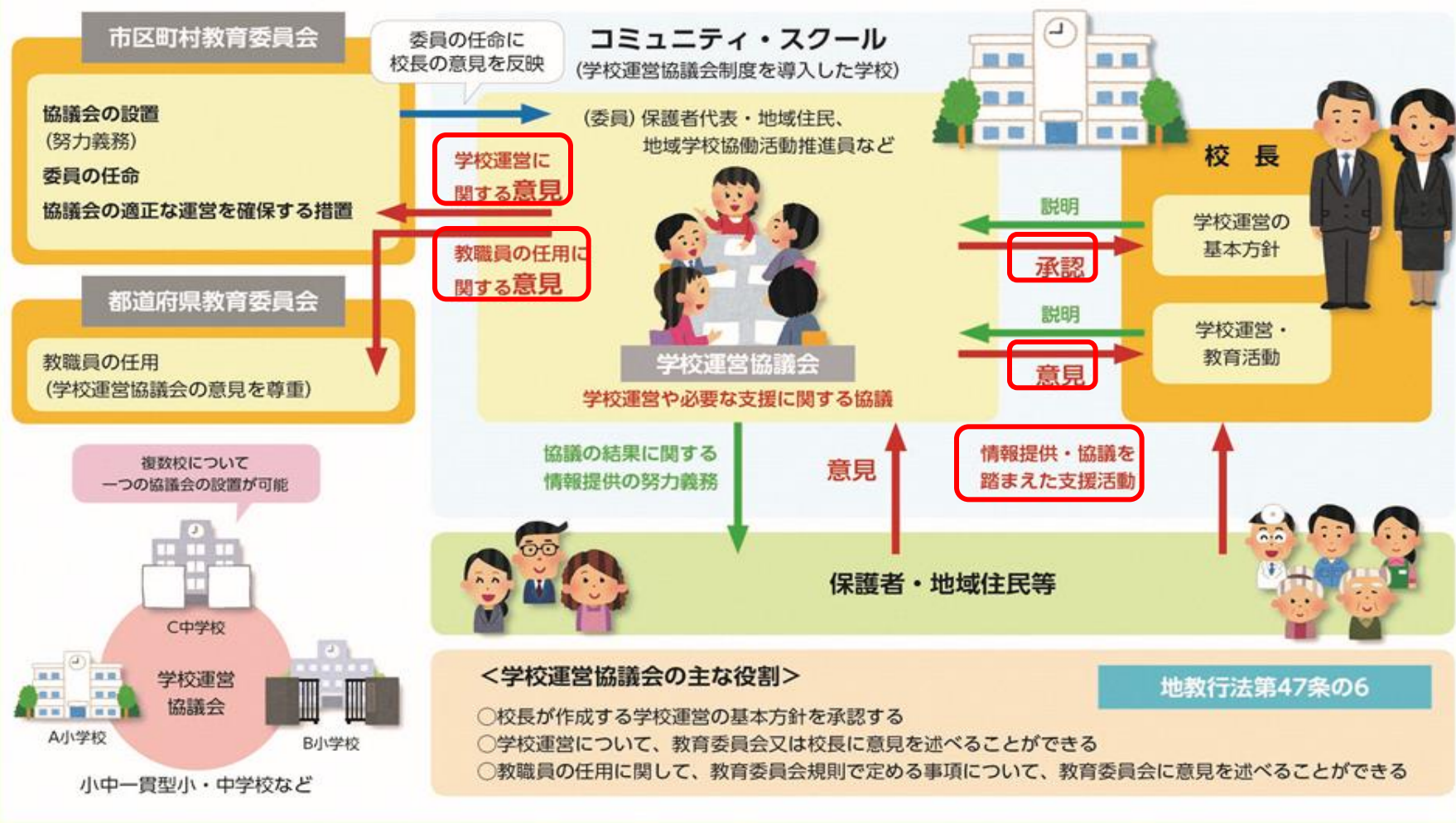
例：京都市東山泉小中学校

義務教育9年間を「児童生徒の将来に向けてのキャリア発達及び人間形成に向けた通過期間」と捉え、キャリア教育の視点からの基礎的汎用的能力の育成を教育課程に組み入れた**9年間を貫くシラバス**を作成し、**社会を生き抜く力の育成を図る。**

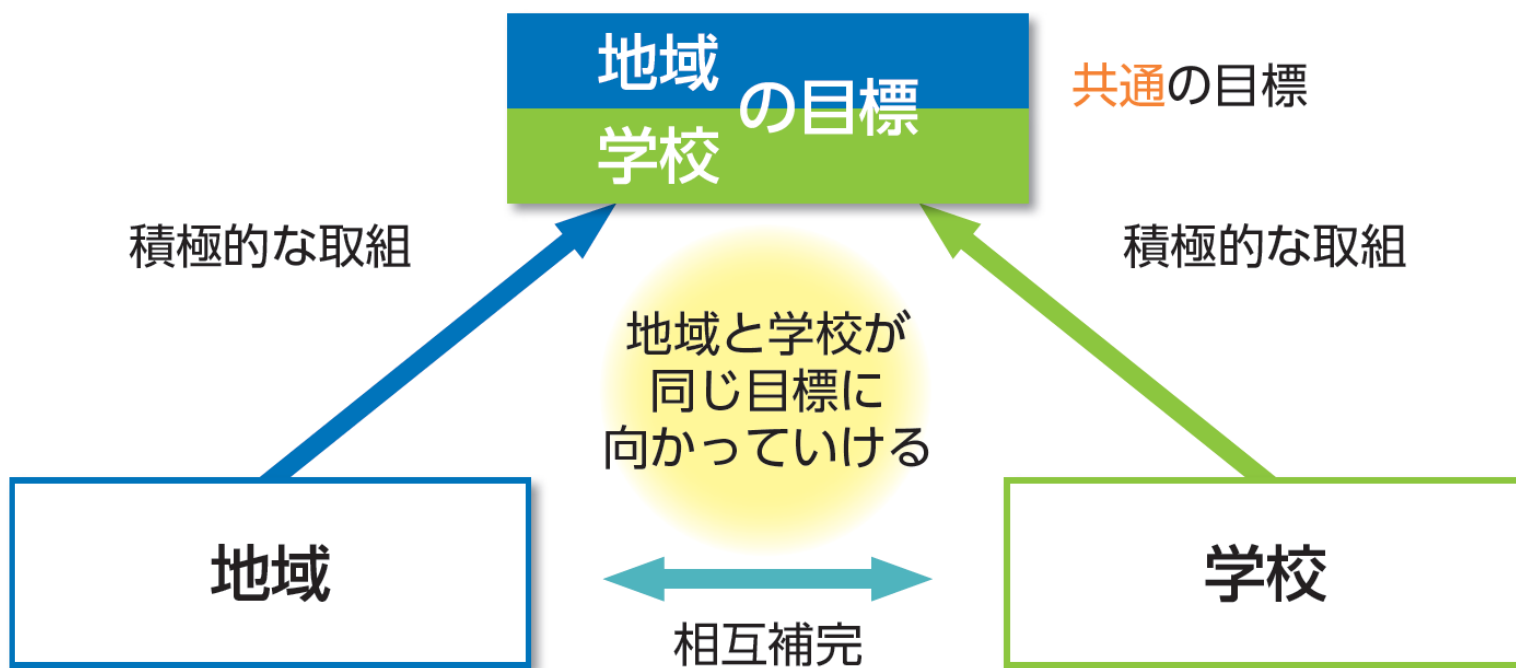


3. 「コミュニティ・スクール」

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の仕組み



3. 「コミュニティ・スクール」



共通の目標が設定されると、お互いに前向きな姿勢で取り組むことができ、子供たちへの教育効果も大いに期待できます。

→ “地域と学校が一体” となって、“役割分担” をしながら、それぞれが“主体的” に取り組むので、お互いに“達成感” を味わうことができます。

ご清聴ありがとうございました！

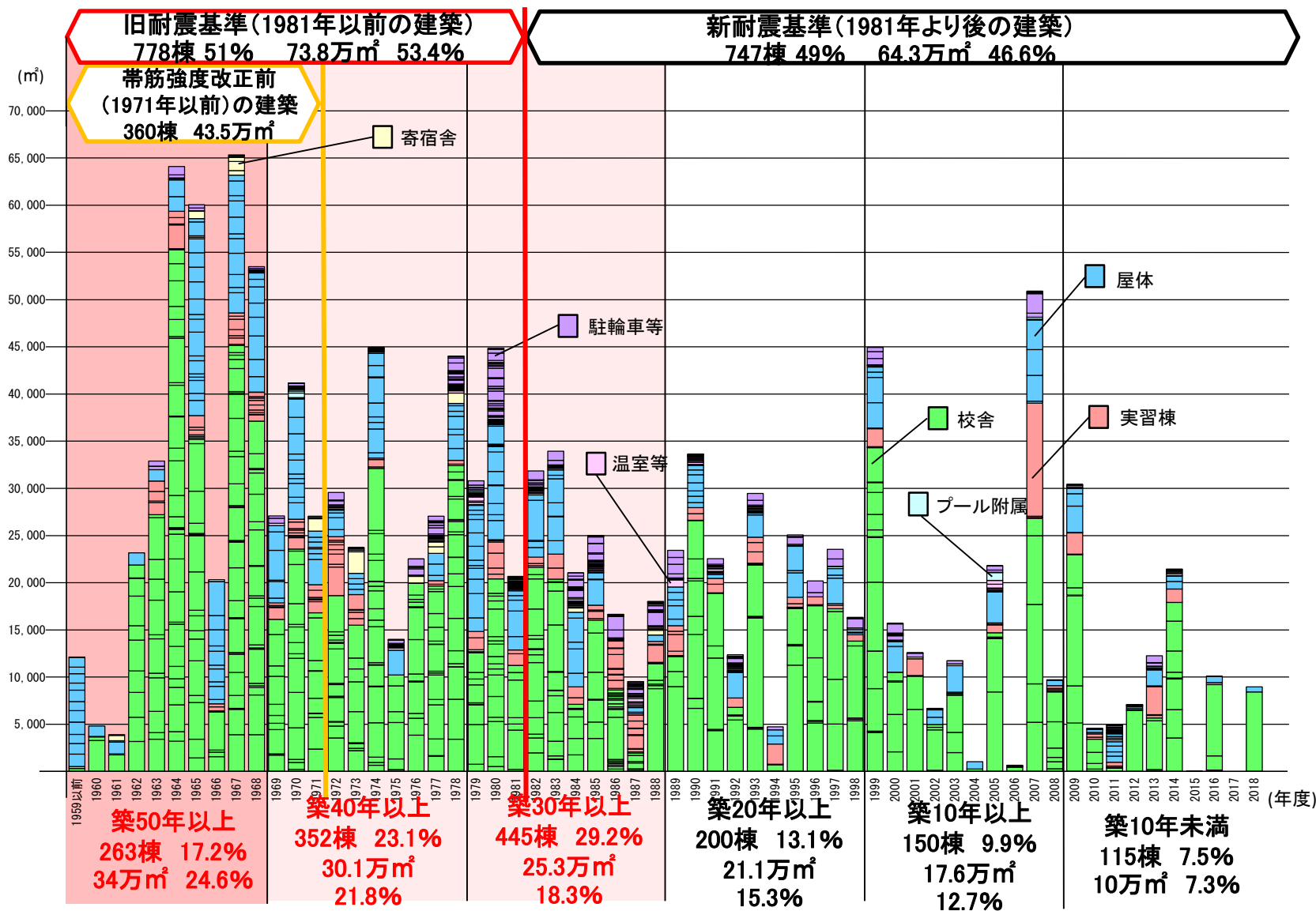
学校施設の現状・課題・FM

～県立学校の事例から～

- 1 学校施設の現状と課題
- 2 ファシリティマネジメント
- 3 牧之原市学校再編計画策定委員会の役割

第1回牧之原市学校再編計画策定委員会
令和元年9月30日

1 学校施設の現状(県立の場合)



全体 (対象:127校 1,525棟 138.1万㎡)

進む老朽化

老朽化が著しく
時代に合わない
湿式・和式トイレ



草の生えた屋上



潜む危険性



脅かされる安全性



適切な教育環境？

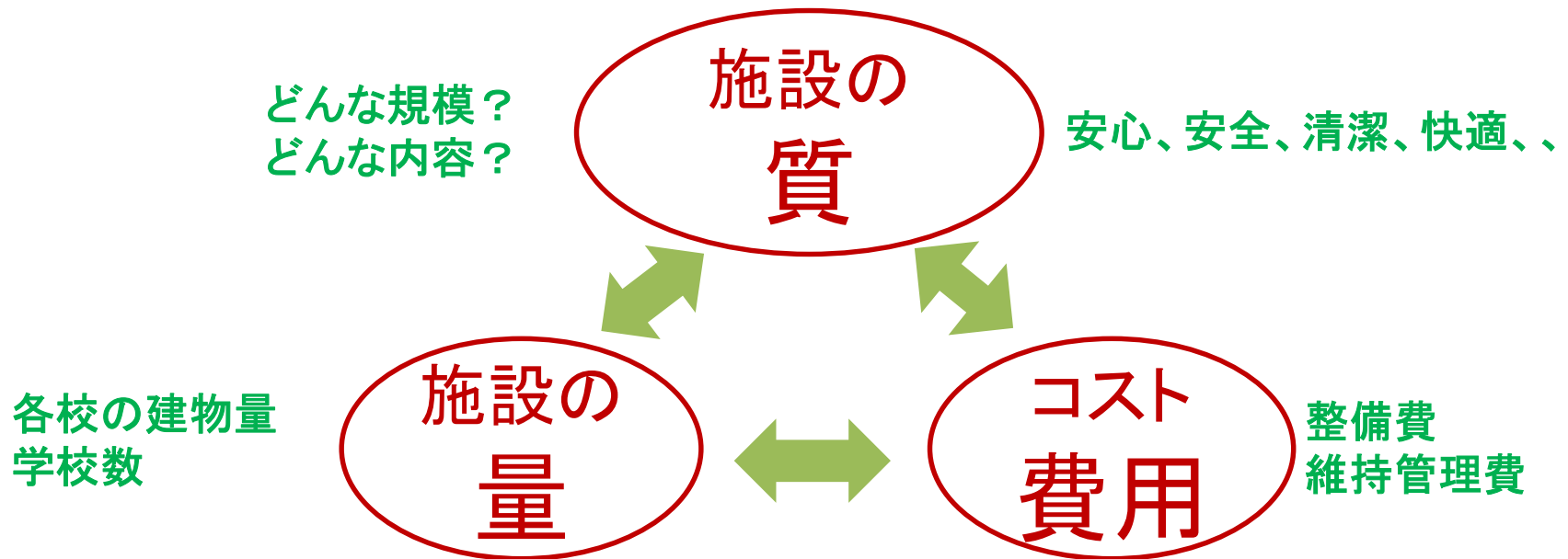


自然災害や異常気象



2 ファシリティ・マネジメント Facility Management (FM)

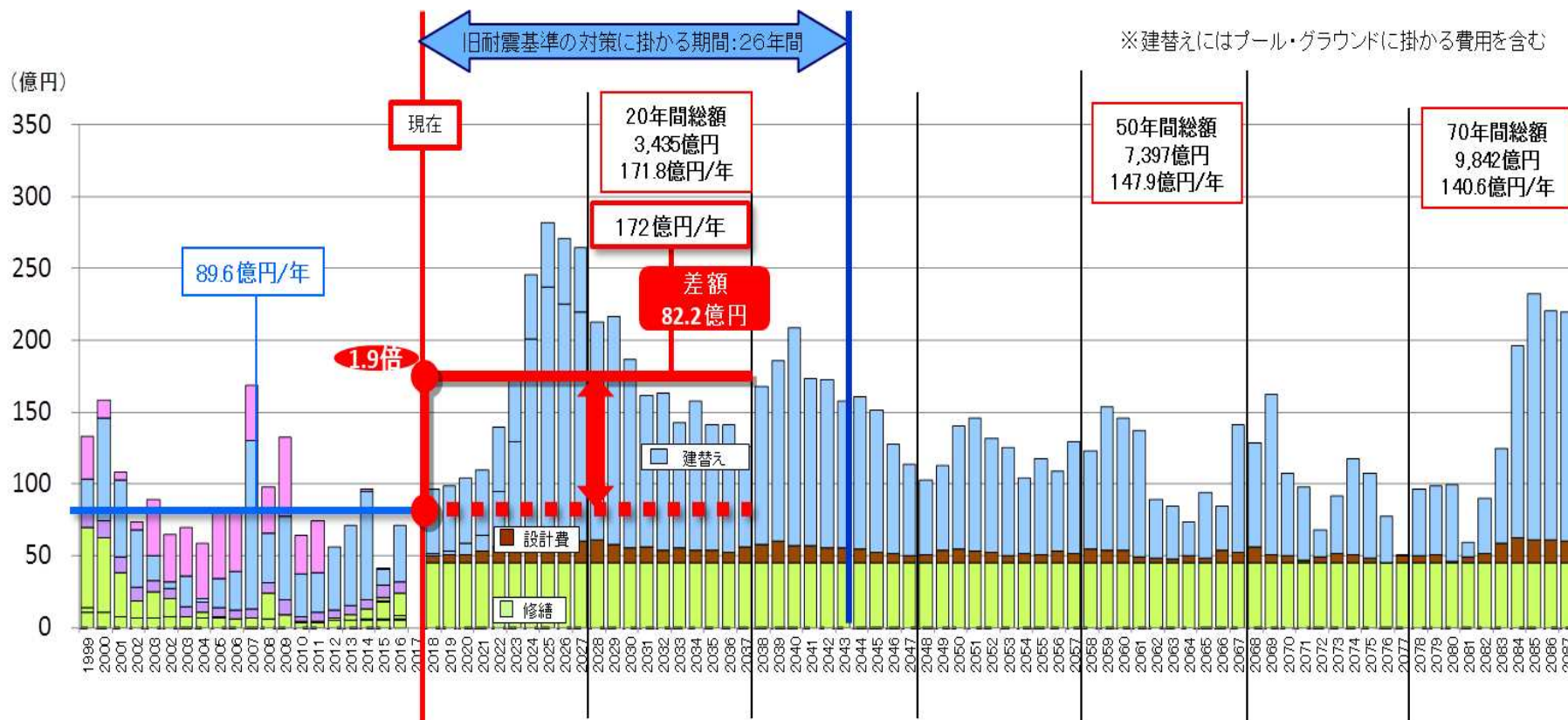
老朽化した大量の施設(ファシリティ)どう管理していくか？



「ファシリティマネジメント」、 「アセットマネジメント」

中長期コスト試算その1 (建替え型)

「たとえば、築60年で全て建替えると・・・」



「今後20年間のコストは年約172億円、ピーク時は年280億円」
(これまでの20年間平均の約2倍)

高校の長寿命化改修

外壁落下や雨漏りのする建物



外壁

屋上防水・塗装を実施



安全で清潔な
環境に改善

老朽化の著しい湿式トイレ



トイレ

洋式化・乾式化により綺麗で明るい空間に



校舎の長寿命化改修

島田商業高校

教室



暗い教室



LED照明

県産木材を用いた明るく温かな教室



建物躯体を活かして
長寿命化改修

廊下



暗い廊下



県産木材を用いて明るく開放的に

高校を特別支援学校に再整備 (長寿命化+用途変更+複合化)



旧吉田高校



吉田特別支援学校



EV

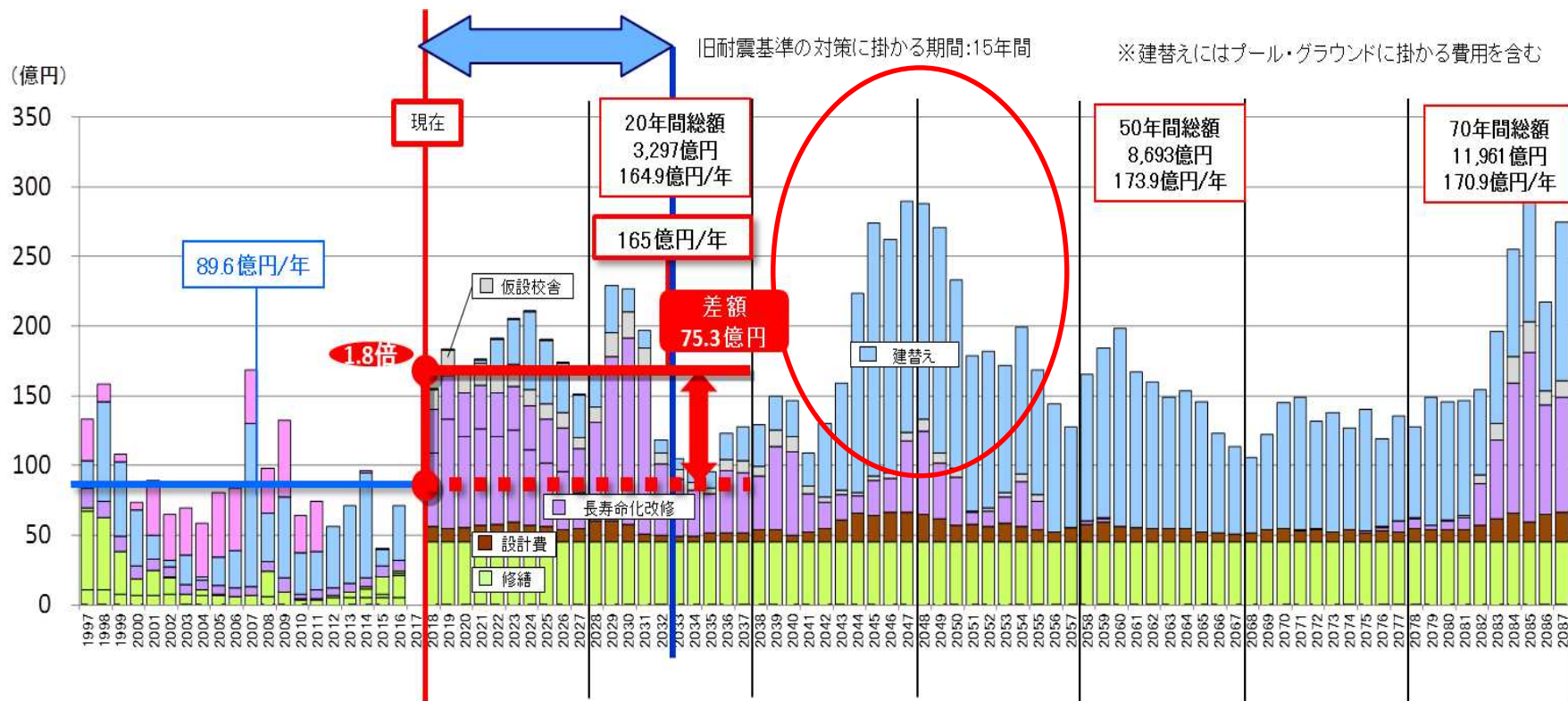


LED照明

木質化

中長期コスト試算その2（長寿命化型）

「長寿命化改修を行って、建替え時期を遅らせると、」



「今後20年間の経費は年165億円、ピーク時は年230億円程度」
 「しかし、その後の20年間に建替えのピーク(年280億円)が、、」

牧之原市公共施設マネジメント基本計画 (H28.11)

牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針 (H31.3)

牧之原市学校再編計画策定委員会 (R1.9～)

どんな規模？
どんな内容？

学校施設の
質

安心、安全、清潔、快適
学びやすい、居心地のいい

各校建物量
学校数

学校施設
の量

コスト
費用

整備費
維持管理費

牧之原市のまちづくり